

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

19

帽子の色

白

帽子の色

青

埼玉栄高等学校

12

3	-	5
5	-	4
3	-	3
1	-	1
ps		

明治大学附属中野高等学校

13

審判1: 井上 嘉隆

審判2: 山崎 昇

戦評

三位決定戦は関東大会の準決勝と同じ顔合わせとなった。この時は第1ピリオドから1-7と明大中野が大きくリードし、そのまま9-19と押し切って明大中野が勝利した。今回は明大中野が再び序盤からリードを奪うのか、それとも埼玉栄が明大中野の猛攻を凌ぎリベンジを果たすのか注目の戦いとなる。

第1ピリオド明大中野②太田竜浩君がセンターボールを取り試合開始。その攻撃で⑥熊谷君がゴール前で鮮やかなシュートを決める。続くディフェンスでボールを奪うと⑤眞板君がフローティングから得点。明大中野は猛攻を仕掛け、④関屋君のミドルで点差を広げる。埼玉栄は②今君が5mシュート、⑫田谷君が個人技でゴールを決め反撃する。さらに④藤井君がゴールキーパーの隙きを突いたシュートで3-5と2点差に迫る。直後の退水のピンチはゴールキーパー①田中雅大君の好判断でボールをカット、続くミドルシュートも好セーブで防ぎこのピリオド2点差を死守した。

第2ピリオド、このピリオドも明大中野⑥熊谷君のゴールで始まった。埼玉栄はパワープレーでのシュートをキーパーに止められるが、⑦太田剣弥君が諦めずに奪い返して得点する。明大中野は⑤眞板君がゴール前で退水を誘発すると⑫狭間君がゴールを決めると、埼玉栄は③大村君が鮮やかなミドルシュートを決める。追われる展開の明大中野だったが、カウンターで得点を重ねて3点リードに戻す。埼玉栄⑦太田剣弥君がカウンターを決めて2点差。さらに②今君も続いて1点差。このピリオドは5-4と埼玉栄が取る。

第3ピリオド、埼玉栄は得意のセットディフェンスでボールを奪うと⑥中山君がペナルティを誘発、これを④藤井君が決め同点とする。その後は一進一退の攻防が続く。明大中野⑦矢作が退水を誘発すると、⑤眞板君が気迫のシュートを決める。その後はお互いキーパーの好セーブが続いてロースコアの展開となった。苦しい時間帯に、埼玉栄は⑥中山君のハンツースhootで1点差。続いて③大村君が退水を誘発。これをしっかり決めて同点とする。残り19秒、明大中野⑦の放ったシュートはゴールポストに当たり味方の前へ落ち、ペナルティを誘発。明大中野④藤井君がこれを決めて辛くも1点差とした。

第4ピリオド、埼玉栄②今君のミドルシュートは惜しくもノーゴール。次のディフェンスでも良い動きを見せた埼玉栄に流れが傾き掛けた。しかし明大中野はパワープレーを⑥熊谷君が決めて2点差に離す。お互い好守備をみせ膠着状態が続く中、埼玉栄がタイムアウト。残り3:13で逆転を狙う。直後の埼玉栄はカウンターで②今君が隙きを突いた5mシュートで1点差。明大中野は試合時間残り39秒で退水を誘発するが得点できず。埼玉栄の攻撃時間はのこり7秒。攻めきれずに無情にもタイムアップとなった。

お互い手の内を知り合っている中だったが、埼玉栄④藤井君と明大中野⑤眞板君の両エースの活躍が光った。埼玉栄はリベンジはならなかったものの攻守に渡り持ち味を存分に発揮することができた。一方の明大中野は常に追い上げられる展開であったが、最後までリードを許さずゲームをコントロールし巧者ぶりを見せた。

記者者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通Gスポーツの杜 鈴鹿水泳場

ゲームNo

20

帽子の色 白

帽子の色 青

金沢市立工業高等学校

20

7 - 3
4 - 1
5 - 2
4 - 0

ps

秀明英光高等学校

6

審判1: 福元 寿夫

審判2: 佐藤 國寛

戦評

いよいよ「2018彩る感動東海総体」水球競技も最終日を迎えた。最後を飾る決勝戦は、大勝で勝ちあがってきた石川県・金沢市立工業高校と、準々決勝以降、僅差の試合を制してきた埼玉県・秀明英光高校の対戦となった。

試合の出だしは互いの得意とする攻撃から始まる。金沢市立工業は⑨宮澤拓夢君がセンターポジションに陣取ると退水を誘発、②浦君がシュートを放つも、秀明英光ゴールキーパー中塚君が2連続セーブでピンチを脱する。それに対して秀明英光はカウンター攻撃を仕掛ける。③小見君が右サイドからシュートを放つが、これは外れる。先制点は金沢市立工業。③笠間君がディフェンスの体制が固まらない隙をついて、右サイドからシュートを決める。秀明英光も⑥千歳君がカットインから退水を誘発、自身が左サイドから決めて同点とする。まさに死闘を予感させる立ち上がりだったが、秀明英光はここから得点後のセットオフenseで点が取れない、さらに相手に失点を許すという悪循環に陥る。金沢市立工業はエース、⑨宮澤拓夢君がきっちり仕事をこなす。3:39にはゴール前でパスを受け、ディフェンスのつき方が甘いとみると、しっかり体を浮かせてシュートを決めた。秀明英光は、⑦青山君が退水を誘発してチャンスを作る。⑥千歳君が左サイドからフェイクでゴールキーパーを落としてシュートを決める。

第2ピリオドは金沢市立工業⑨宮澤拓夢君の活躍が輝く。7:42にはゴール前5mはあろうかというところでパスを受けると反転、左腕を振り抜きゴールネットを揺らした。さらには3:18⑤新田君からジャストパスが飛ぶと、ワンタッチでシュートを決める。秀明英光は④後藤君がカットインからシュートを決めるのがやっとならった。得意のカウンター攻撃を仕掛けたいところであるが、そこは金沢市立工業ディフェンスも確実に戻って相手の持ち味を出させない。

5分間のハーフタイムを終えた後半の第3ピリオド、金沢市立工業はディフェンスの選手を相手陣内に1人残す変則ディフェンスを取る。秀明英光は一人多い状態で攻めるがなかなか得点が決められない。反対に秀明英光陣内に残っていた金沢市立工業⑨宮澤拓夢君へパスを通されてしまう。たまたま飛び出したゴールキーパーが退水となると、高校生らしくらぬ落ち着き払ったフリースローシュートを決める。

第4ピリオドに入ると金沢市立工業はメンバーを変えてくる。その間に少しでも追いつきたい秀明英光は、金沢市立工業の反則やパスカットでチャンスを作るが決められない。反対に退水のチャンスを金沢市立工業⑤新田君に決められる。秀明英光は5:18、金沢市立工業ディフェンスが2人退水となるチャンスを迎えるが、ボールはゴールマウスを捉えられない。最後は2:42金沢市立工業⑨宮澤拓夢君が決勝点を決めて、金沢市立工業が勝利を収めた。

インターハイ決勝は3年連続で同じカードであった。昨年は3点差、一昨年は1点差で金沢市立工業が逃げ切っている。秀明英光は3度目の正直の意気込みで望んだ決勝戦であろうが、残念ながら力の差を見せつけられた。3週間後に行われる国民体育大会でも熱戦が繰り広げられることであろう。今回敗退したチームの奮起を期待したい。これで本大会全ての競技が終了した。参加した全チームの健闘を讃えらるとともに、この大会を無事に終えられるようご尽力いただいた方々に心より感謝申し上げる。

記者

荻野 浩明